

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
【生きる】 【かかわる】	③価値ある自分 ④夢や希望の大切さ ⑤やり抜く強さ ⑥心の健康 ⑨仲間や地域の人々とのつながり	教科・道徳 特活・総合等

【内容】

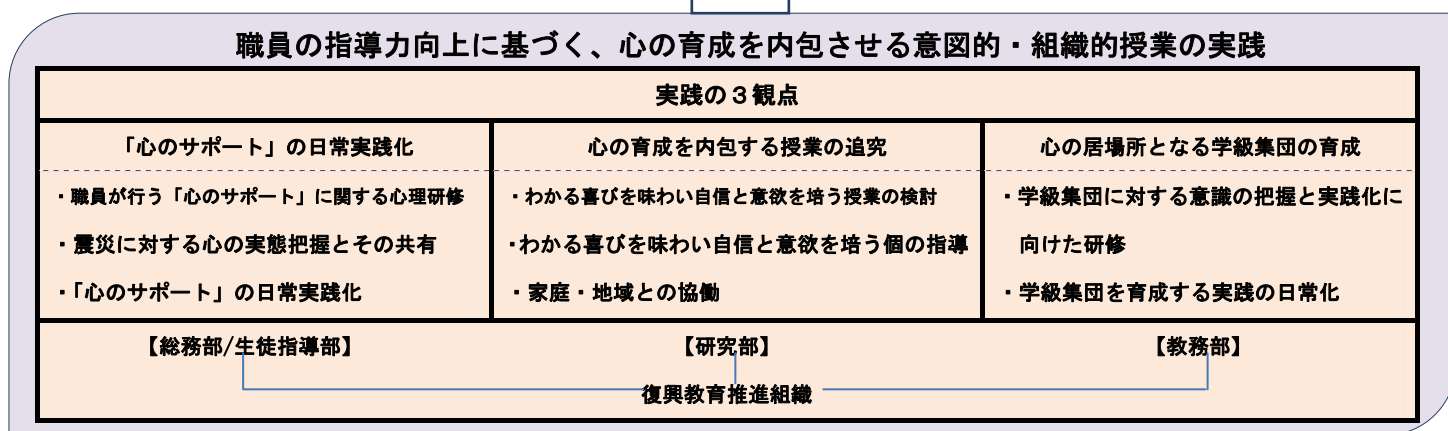
職員の指導力向上に基づく、心の育成を内包させる意図的・組織的な授業の実践

【対象】

全児童

【実践概要】

復興教育目標 「ともに夢や希望をかなえようとする、明るく強い心を育む」



【実践の展開】

【「心のサポート」の日常実践化】

職員が行う「心のサポート」に関する心理研修

- 1 回目 自信と意欲の育成を内包する授業の在り方について
- 2 回目 学級ミーティングについて
- 3 回目 思いを伝え・分かり合うグループ活動について



配置 SC を講師とする心理研修会。児童の実態を共有しているため具体的な研修が可能。

震災に対する心の実態把握とその共有

- 1 「こころの健康観察」等による実態把握
- 2 被災状況・家族状況・住宅状況等の実態把握
- 3 1, 2 を一覧化し全職員で情報共有化

「心のサポート」の日常実践化

- 1 実態把握に基づく「心のサポート」の日常実践化
- 2 2 週間サイクルによる実践の PDCA 化（週録を活用し、担任の計画による実践を累積）



グループカウンセリングを意図した社会科のグループ学習。

〔心の居場所となる学級集団の育成〕

学級集団に対する意識の把握と実践化に向けた研修

- 1 QUテストによる学級集団に対する意識の実態把握
- 2 学級集団に対する意識の向上に向けた実践に関する研修・交流

学級集団を育成する実践の日常化

- 1 実態把握に基づく学級集団育成の日常実践化
- 2 2週間サイクルによる実践のPDCA化（週録を活用し、担任の計画による実践を累積）



思いを伝え・分かり合う体験を意図した国語の言語活動。

〔心の育成を内包する授業の追究〕

わかる喜びを味わい自信と意欲を培う授業の検討

- 1 学力の実態把握
- 2 アンケート調査に基づく学習意識の実態把握
- 3 実態に基づく授業の計画化と組織化（校内研究を通じて）
- 4 心の育成を内包させる実践の検討（心理研修に基づいて）

わかる喜びを味わい自信と意欲を培う個の指導

- 1 学力分析に基づく個の指導の計画化
- 2 個の指導を行う校内体制の整備（TT、習熟度別指導等）
- 3 個の指導を行う場の設定（時間、場所等）

家庭・地域との協働 —「まなびフェスト」を基盤として—

- 1 家庭学習に対する共通理解の促進（「家庭学習のしおり」等）
- 2 学力の基盤となる音読の取組み（「音読カード」等）
- 3 学力の基礎となる生活リズムを整える取組み（「生活リズム点検」等）
- 4 地域との協働の推進（児童会活動等を通じたボランティア等）



アンケート調査に基づき、「発表すること」への支援を意識し、わかる喜びを追求した国語の授業。



児童会が中心となり、地域の方と一緒に落ち葉掃き活動。

【まとめ】

震災から3年が経過しようとしているが、本校には、こころの健康観察による要サポート児童が全体の約2割、仮設住宅で生活する児童が約3割、学区外からスクールバスで通う児童が1割強ある。こうした現状から、本校の復興教育の中心課題は児童の心のサポートを継続して実践することと考えられる。具体的には、児童が未来に向かって歩むための原動力、すなわち自信、意欲という前向きな心の力を集団との関わりの中で育成していくことを本校における「心のサポート」と捉え、これを日常の教育活動の中に内包させ全児童を対象に実践していくことである。

そのためには、まず「心のサポート」の推進に必要な研修を実施して職員の指導力を向上させ、そのうえで担任個々の適切な計画により日常の教育活動の中でこれを実践化することが求められる。特に授業における実践化の検討は、担任と児童の関わり方の量と深さ、時間の多さの面からみて最も重要と考えられる。

各教科、道徳、特別活動、総合等の各指導課程を心のサポートの内包を念頭に置いて再検討することは、被災地の学校における復興教育の実践に継続性を与えるという意味で有効な試みであった。今後も被災地における児童の現状を踏まえ、これに応ずるための復興教育実践の在り方について、多様な観点から検討を加える必要がある。